

アメリカ合衆國以下各國 諸 荒木貞夫其他ニロス
ル宣言

私、笠山良明ハ右ヒ左ノ如ク御詫シテシマハ。

私ハ明治二十五年福井縣足尾村ニ生レ、小學校、中學校ヲ終ヘテ帝國大學ニ入り、大正八年同校ヲ卒業
シマシタ。

卒業後同テク福井農業銀行ニ入社シ丸ノ内ビルティ
ング内ノ同社本店金庫門玄部ニ配属サレマシタ。

大正八年三月昭和四年ニ至ル國同部ニ勤務シテ居リ
マシタが、私ノ勤イテ居ヌ部ノ上官ハ大川周明博士
及長尾部長テアリマシタ。

大川博士ハ大正十二年頃「行進社」ヲ組シソノ指
導ニ當ツタ方私モ一員トナリマシタ。私ハソノ主義
ノ實ニ當テ意見ガ合ハズ昭和三年ニ辭メマシタが、
ソノ口直ハ私ガ昭和四年東京ヲ去ツタ時ニハホグ存
續シテ居リマシタ。

「行進社」ハ國家主義的口直テ日本ト西洋ニ於ケ
ル當國ノ友誼關係ヲ政治スベク研究精勤シ及日本
政府ヲ改革シ、又日本方東洋ノ指導者タルベク眞明
ニアルト云フ爲念ヲ懇摯ハル爲ニ組ムセラレタノテ

アリ各員ハ日本ノ御心此ヲ算ス爲ニ万全ヲ鑑サハバ
ナラント主張シテアリマス。

大川博士ハコノ口述ニ聞クテ上記ノ主張ヲ主張スル
ニ、三ノ説ヲシマシタ。ソシテ少ク共、一處ハ、
日本ハ印度ノ獨立ヲ援助スベキアル旨述ベマシタ。

是モ有力テ全員ノ一ハニ扇子木員信以張ガ居リマシ
タ。

私方昇進ヲ鑑ミ東京、吉ル事ヲ口ツタノテ南滿洲鐵
道會社ニ仁クベク滿洲國大連ヘ送ラレマシム。滿鐵
ハ滿洲國公所ノ主ナル株主ノ一ツオシタ。然シ乍ラ
大連ニ於ケル私ノ仕事ハ主トシテ滿洲ノ人事ニ關係
シテ居マシタ即テ全滿員ノ職位、福利厚生恩給ニ關
スル事也アリマシタ。

昭和五年五月私ハ主トシテ滿洲社員ニヨリ約三十名
乃至四十名ノ日本人全員カラ成ル「玄胞會」ト云フ
口體ヲ作りソノ會長トテリマシタ。タゞ一人ノ例外
ハ當時大連及奉天ニ華裔既テ告ツテナニ日本人法律
家中好逸氏テアリマシタ。

昭和六年九月十八日即テ前ノ事後約後間モナク中
國好逸ハ東京ノ政治部ニヨリテ、自治指導部ニ協
力スル様指示サレマシタ。ソノ指導部ハ遼寧省ノ獨
立ヲ謀ク各處口體ノ活動ヲ督導シ命令シ、指示シ、

且後ニ、道端及鷹司ノ全體方丈ニカラ獨立ヲ宣言ス
ル様九月下旬ニ組合セラレタモノテ、コノ口匯ノ主
なる目的ハカ、ル獨立運動ヲ發展サセ指示スル事ニ
助力ヲ與ヘルニアツク。口匯ノ頭主ハ、支那人ノ西
春洋テ外ニ支那人若千居リマシタガ、全員ノ九個
及ビニモ實任アル地位ノ入々ハ皆日本人テシタ。

十月中旬頭中原好義氏ハ六邊ニ於テ私ヲ召レ奉天ヘ
行ツテ自治政府宗内局テ微ト一轍ニ衝ク運動メマシ
タ。

私ハ吾ガ口匯ノ全員ニ汚シ、ソノ中約二十名ハコノ
仕事ヲ助ケル爲ニ奉天ヘ行ツタノテシタ。私方奉天
ニ着イタ時ハ既ニ完全ノ組合ガ出來上テ居リ、私ハ
奉天ノ本部ニ於ケル邊締主任ニ任命サレマシタ。俄
ベハ最初、鷹司ハ奉天省ノ十三城ハ十四縣ヲ受ケ
持ツテ居リマシタガ私ハソノ中八縣ニ實任ヲ有シテ
居マシタ。我々ハ各縣ニ活動スル二人城ハ三人ノ代
表者ヲ定テ其ノ大部分ハ日本人テシタ私ハ彼等トノ
邊締ヲ保テソノ努力ヲ指導シマシタ。私ハ縣長及政
府役人達ニ他縣ニ於ケル狀況ヲ傳説シ又諸シ彼等ガ
人民ノ利益ヲ増進スル爲ニ活動スル安定シタ然モ組
合的政府ヲ持ツトシタラ、如何ニソノ國力邊力ニ良
クナルカラ示シ、ソシテ又之ヲ實施スル爲ニハ彼等
ガ支那カラ獨立ヲ求メル事方必要テアル冒語リマシ

タ。初メハコノ獨立ノ様ルベキ形体ニシテ、一定ノ
タ前章ハテカツタノテアハガ、公ニテテ頭主ニ給
者者若シクハ皇帝ヲ戴ク名別官ノ州ヲ形成ハル事ニ
決定シマシタ

私方筋自ラ信メル時私ノ仕事ニ資本方要リマシタノ
テ殊ニ自治指導部ニシテキナ人道ヲ仕ハセル家ヲ
負リル爲ノ費用ガ取リマシタノテ當社ノ運営セル費
付糧倉カラ五百圓ヲ負リマシタ。

昭和六年（一九三一年）ノ十一月ニ糧倉カラ約二萬
圓ヲ貸ヒマシタ。此ノ金ハ私方筋ニ借イテキタ時
ノ功勞ニ依ルモノテソノ中カラ私ハ借金ヲ返却致シ
マシタ。

自治指導部ニハ次ノ如キハツノ主アル課又ハ部ガア
リマシタ。

- 一、 口聞 日支兩國人口國ヲ持ツ
- 二、 総務 全々日本人民ニ依ツテ統一サル
- 三、 指導
- 四、 総圖
- 五、 連絡
- 六、 宣傳
- 七、 調査及教育
- 八、 財政

委員ハ約百二十名テアリ、中約二十名ハ友邦會カラ
而リハ猶訓青年聯盟カラノ者テシタ。會員ノ中約十
五名ガ支那人カ猶訓人テアリマシタ。

私ガ持ヘマハノニコノ關係ヲ負カス金ハ南京軍カラ
來タト思ヒマス。ト言フノハ我々ハ南京軍ト密接ナ
ル權力ヲ保テ俄々ノ權ベテノ政治政黨及活動ハ軍ノ
承認ヲ受ケレバテラナカツタノテアリマス。復垣征
四郎六佐ハコノ部ヲ受持テキマシタ。石原完爾大
佐ハ軍械及機械ヲ經營シ、土肥原廣二大佐ハ奉天ニ
於ケル信號電局ヲ經營シテキマシタ。ドノ支那人ガ
我々ノ前輩ヲ好意ヲ以テ迎ヘテ下レルカト云フ情報
ノ多クハ土肥原大佐ノ部カラ來タモノテアリマス。

昭和七年（一九三二年）一月ノ初メ自治指導部ハ寧
明ヲ謀シ、北東省方猶訓及蒙古ニ新獨立國家ヲ建
テルベク大國民運動ヲ宣チニ起ス必至ニ宣画シテキ
ル事ヲ明示シタノテアル。

又、之魯省ノ人民ニ猶シテ張學良元帥ヲ頤臺シ自
治指導部ニ参加シ、以テ人民ノ生活狀態ヲ改善スル
爲行政政府ヲ設立スルノニ權力スルヤウ恐譏シマシタ。

昭和七年（一九三二年）二月十八日北東省、即チ
奉天、黑龍江、吉林及承德ハ獨立宣言ヲ發表シ國民
黨ト南京政府トノ關係ヲ絶テ行政政府ヲ省立スベキ旨

布告シマシタ。

自治指導部ハ各官ニ於テ獨立運動ノ構成ニ貢六ナル役官ヲ爲シ、ソノ結果トシテ滿洲國ト言フ新國家ヲ樹立サレ、昭和七年（一九三二年）三月九日、儕ヘソリト氏方攝政トシテ立テラレタノテアリマス。

其ノ後同モナク自治指導部ハ廢セラレ私ハ市政局設立ヲ助力スル爲姦田修一ト共ニ長春ニ行キマシタ。市政局ハ新政府ノ一部テアリ内務大臣ノ指導下ニ置カレ新政府ノ文化、宗教、及ビ教育ノ發展ヲ適當スルノテアツタ。

三、四ヶ月ノ後、該局ハ廢サレ政府ハ和平會ヲ通ジテ向キ對ケ、滿洲國民ノ間ニ國家主義的精神ヲ發展サセル役割ヲ成シテキムノテアリマス。

長春ヲ去ツタ後、私ハ大連ニ歸リソコニ殆ド一年居リマシタ方圓東軍方私ノ行動ヲ好マス様ニテリマシタノテ大連ヲ無理ニ去ラサレ、東京ニ参リマシム。ソコテ私ハ印刷所ヲ建テ「大亞編亞」ト云フ雑誌ヲ發行シマシタ。私ハ昭和二十年（一九四五年）一月迄コノ仕事ヲ續ケテソリマシタ方只今ハ無職テアリマス。

笠　　木　　良　　明　（印）

上記笠木良明ハ一九四六年(昭和廿一年)六月十
日東京、監督官ビルトニテ在官ノ面前ニテ宣誓ノ上
本件述査ニ署名セリ。

アルヴァード・カーベンダ

○ J. D. M. S. D.

予、ジョン・A・カーティス、ハミルソンノ如ク證
明ス。予ハ日英兩國語ニ通じ、且本日前記供述査
ヲ上記笠木良明ニ日本語ニテ聽ミ聞カセナリ。之ヲ
爲スニ當リ、予ハ前記供述査ノ内容ヲ英語ヨリ日本
語ニ、忠實且正確ニ譯セリ。

右笠木良明ハ該供述査ノ内容ヲ忠實ナル旨並該供述
査ニ宣誓ノ上快ク署名スルニ當リ。

右笠木良明ハ予ノ明前ニテ正式ニ宣誓シ且該供述査
ニ予ノ面前ニテ宣誓ノ上署名セリ。該宣誓ヲ爲シ且
該供述査ニ署名スルニ聽イテノ凡テノ手稿ハ日本語
ヨリ英語ニ、又英語ヨリ日本語ニ忠實且正確ニ譯
セラレ右供述者ニヨリ充分理解旦了解セラレナリ。

一九四六年(昭和廿一年)六月十日

日本國、東京ニ於テ

ジョン・A・カーティス